

霞ヶ浦北浦にて漁獲された小形のアオウオ
Mylopharyngodon piceus (Richardson) について¹⁾

加瀬林成夫・三浦紀人

On the Propagation of Chinese Cyprinid Fish
Mylopharyngodon piceus (Richardson) in Japan

Toshio Kasebayashi and Norihito Miura

は し が き

アオウオ *Mylopharyngodon piceus* (Richardson) は、昭和18年1月および同20年3月の2回にわたって中国から霞ヶ浦北浦に移殖放流されたソウギョ *Ctenopharyngodon idellus* (Cuvier et Valenciennes) に、ハクレン *Hypophthalmichthys molitrix* (Cuvier et Valenciennes) およびコクレン *Aristichthys nobilis* (Richardson) と共にわずかに混じて移殖された鯉科魚類である。そのうちソウギョ・ハクレンおよびコクレンについては、利根川水系における天然繁殖が丹下(1948, 1949)・中村(1949)・稲葉(1950, 1954)等によつて報告されているが、アオウオについてはいまだその事実が確かめられていなかった。ところが最近に至つて、霞ヶ浦および北浦において小形のアオウオが漁獲され始め、筆者等もそのうち若干尾を採集することができたのでその結果を報告する。

本文に入るに先だち御指導をいただいた東京水産大学稲葉伝三郎教授・資源科学研究所中村守純氏および資料の提供をいただいた埼玉・群馬両県の係員の方々に対して深く感謝する。

漁 獲 地 点

現在までに明らかにされた漁獲地点は第1表および第1図のとおりである。これら小形アオウオの漁獲の多くはワカサギ張網²⁾によつて混獲されたもので、とくに北浦の南部において多く漁獲されている。霞ヶ浦で現在明らかになつているのは、土浦入に属する土浦市蓮河原町地先および美浦村木原地先だけであるが、高浜入の北部における張網等によつても小形のソウギョが多く漁獲されていることを聞いているので、おそらくそれらの中にアオウオも混じているのではないかと思われるが、それについてはいまだ調査の機会を得ていない。

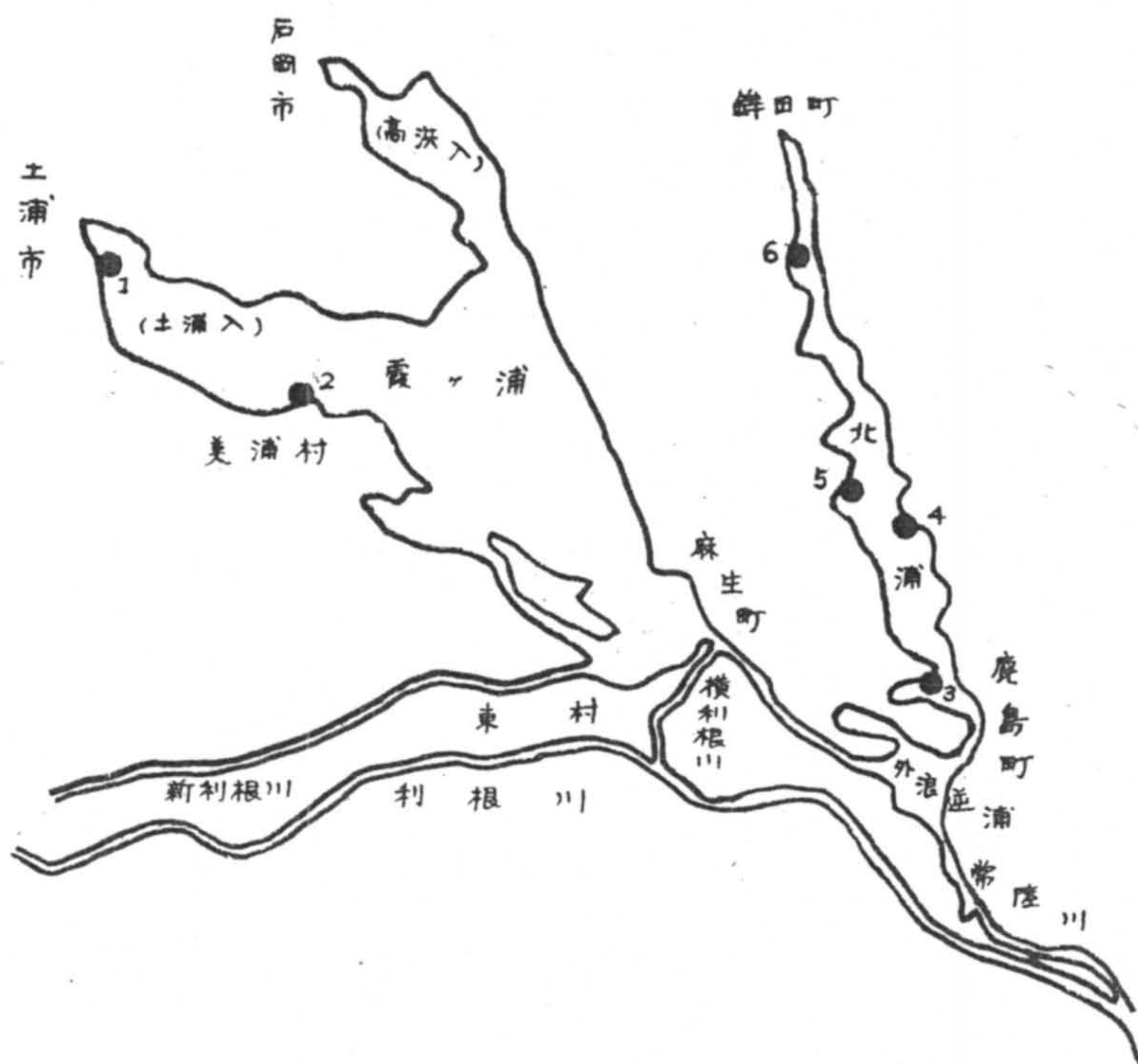
霞ヶ浦および北浦ともにワカサギ張網によつて混獲された小形のアオウオは、11月から翌年1月までの期間であつて、それ以外の期間には張網の操業が続けてなされていても殆んど漁獲されていない。それは小形のソウギョも同様であるが、一般にソウギョはアオウオよりも漁獲の尾数が少ない³⁾。11月から翌年1月の期間にだけアオウオやソウギョの漁獲があるというのは、その期間がワカサギ張網漁業の最盛期であるためとくに混獲が目立つのか、あるいは何か他の条件によるものであるかは現在のところ明らかにす

1) 本稿は、さきに調査資料第21号(1956・謄写印刷)にて発表したのを再録したものである。

2) 湖岸に張網し、主として産卵のために湖岸に遡遊してくるワカサギを漁獲する定置網の一種。

3) 小形アオウオの漁獲期間に、アオウオと共に採集し得たソウギョは、土浦地先のワカサギ張網によつて漁獲された全長17.8cmのもの1尾だけである。

る資料がない。



第1図 アオウオ漁獲地点

第1表 アオウオ漁獲地点

| St. No. | 地名 | 標本採集数 | 間込み漁獲魚数 |
|---------|-----------|-------|-----------------------|
| 1 | 土浦市蓮河原町 | 2 | ワカサギ張網にて2尾 |
| 2 | 稲敷郡美浦村木原 | 3 | ワカサギ張網にて3尾 |
| 3 | 行方郡潮来町水原 | — | ワカサギ張網1統 1日2—3尾 (5名) |
| 4 | 鹿島郡大野村奈良毛 | — | ワカサギ張網業者1人当り5—6尾 (6名) |
| 5 | 行方郡麻生町宇崎 | 2 | 大徳網にて3尾 |
| 6 | 行方郡北浦村三和 | 2 | ワカサギ張網にて1尾 |

標本の測定結果

筆者等の採集したアオウオは、その測定値を第2表に示したように全長16.3—22.7 cm、体重44.5—153.0 gr. であつた。また、間込み調査によつて確め得たワカサギ張網による混獲のアオウオの魚体も、漁獲全地点を通じていずれも同様の大きさのようであつた。

なお、採集魚の鱗を見ると、annuli らしきもの1箇を数え得る。

昭和20年以降のソウギヨ種苗移植記録

さきに述べたように霞ヶ浦北浦へのソウギヨ種苗移植は昭和20年3月が最後であるが、最近になつて

第2表 アオウオ測定値

| No. | 採集年月日 | 採集地点 | 採集漁具 | 全長 | 体重 |
|-----|----------------|----------|--------|------------|--------------|
| 1 | 昭和 30.11.15 | 稲敷郡美浦村木原 | ワカサギ張網 | cm 20.4 | gr. 144.5 |
| 2 | 30.11.26 | 〃 | 〃 | 21.6 | 124.0 |
| 3 | 30.11.29 | 〃 | 〃 | 16.3 | 44.5 |
| 4 | 30.12.20 | 土浦市蓮河原町 | 〃 | 19.9 | 100.0 |
| 5 | 31.1.12 | 〃 | 〃 | 19.8 | 106.0 |
| 6 | 30.11.29 | 行方郡北浦村三和 | 〃 | 22.7 | 153.0 |
| 7 | 30.12.5 | 行方郡麻生町宇崎 | 大徳網 | 22.1 | 150.0 |
| 8 | 30.12.5 | 〃 | 〃 | 19.2 | — |
| 9 | 30.12.12 | 行方郡北浦村三和 | フナ延縄 | 20.0 | 98.0 |

埼玉県では県内の溜池に、群馬県では城沼に、それぞれ中国産のソウギョ種苗を移殖放流している。それらの中に混じたアオウオが、利根川を通じて霞ヶ浦北浦に侵入することも考えられるので、両県へ最近における放流状況について照会したところ、いずれも利根川水系へ出るようなことはないとの回答を得た。両県における放流の記録を第3表に示した。

第3表 昭和20年以降のソウギョ移殖記録

| 県別 | 放流年月日 | 放流場所 | 放流尾数 | 放流時の大きさ | アオウオの混入数 | 昭和31年3月現在の大きさ |
|-----|---------------|-------|----------|------------|----------|------------------------|
| 埼玉県 | 昭和 29.7.11 | 県内各溜池 | 尾 396 | 不明 | 尾 3 | 不明 |
| 〃 | 30.1.18 | 〃 | 1,000 | 約2吋(5cm) | 不明 | 全長約50cm 体重約1,500gr. |
| 群馬県 | 30.1.19 | 城沼 | 1,000 | 約2吋(5cm) | 〃 | 〃 |
| 〃 | 30.10.18 | 〃 | 1,000 | 約1吋(2.5cm) | 〃 | 不明 |

考 察

丹下(1949)は霞ヶ浦北浦から採集された小形ソウギョの鱗を検して、今回採集されたアオウオとほとんど同じ大きさのものに annuli を3—4箇数え、1年に annuli 2箇を生ずるものとしてそれを2年魚と推定している。中村(1949)は渡良瀬川で漁獲された全長19.2cmのソウギョに annuli 1箇を数え、annuli 1箇をもつて1年とすれば1年魚、丹下の説をとれば2年魚であるといっている。また、中村一雄(1946)は、香港から輸入された中国産ソウギョ全長3.7cmのものを、昭和29年7月18日から同年9月28日まで溜池で飼育して平均全長20.2cmになったと報告している。

日本内地に移殖されたアオウオの成長についての報告はみられないようであるが、もしアオウオの成長がそれらソウギョと大差ないものとみることができるとすれば、筆者等の採集したアオウオは1年魚か、または2年魚であるといえることができる。

ともかくこの小形のアオウオが、昭和20年当時の放流魚であるということは考えられない。

また、万一昭和29年および同30年に、埼玉・群馬両県で放流したソウギョに混入していたアオウオが侵入して来たとしても、昭和30年1月に埼玉県が群馬県と同時期に溜池に放養したものは、同31年3月現在で全長1尺5寸(49.5cm)前後に成長していることであり、群馬県がその後昭和30年10月に城沼

に放流当時の大きさは、全長1 inch (2.5 cm) であつたとのことであるから（それ以後1ヶ月で全長20 cm 前後に成長するとは考えられない）、霞ヶ浦北浦で漁獲されたアオウオが、埼玉・群馬両県で放流したソウギョに混じていたものでないことが証明されると思う。

利根川下流附近の稲敷郡東村の漁業者によれば、同地先でもソウギョと同時に小形のアオウオも漁獲されるとの話であり、また北浦の南部にアオウオの漁獲の多いことなどから、霞ヶ浦北浦から漁獲された小形のアオウオは、ソウギョと同じく利根川水系において天然繁殖したものであるとみることができると思われる。

参 考 文 献

1. 茨城県水産振興場 1950：昭和24年度ソウギョ採苗試験調査報告.
2. ————. 1951：昭和25年度ソウギョ採苗試験調査報告.
3. ————. 1953：北浦におけるソウギョ及びハクレンの漁況. 茨城県水産振興場調査資料第6号.
4. 稲葉伝三郎 1950：利根川水系における草魚、レン魚の繁殖について. 日本水産学会東北支部会報.
5. ————. 1954：淡水養殖における移入種とその繁殖. 利根川・荒川水系の中国移入魚の繁殖状況. 楽水3号. p. 27—31.
6. 中村守純 1949：渡良瀬川流域で漁獲された小形のソウギョ及びハクレンについて. 資源研彙報 14. p. 31—34.
7. 中村一雄 1956：ソウギョの移入と溜池および養魚池における養殖の一例. 水産増殖第4巻第1号. p. 1—8.